



▲直接搬入の事前
予約はこちら

年末年始の「燃えるごみの収集日」・ 「ごみの直接搬入」についてお知らせします

- ・燃えるごみは、村指定のごみ袋に入れて、午前8時30分までに集積所へ出ししましょう。
年末年始は収集時間が通常と異なる場合がありますのでご了承ください。
- ・直接搬入の際は、きちんと分別した上で、早めの搬入にご協力ください。年末の最終日は混雑が予想されます。
- ・詳細は「広報とうかい」(12月10日号)をご覧ください。

年末年始、ごみの収集と直接搬入の日程		12/27 (土)	28 (日)	29 (月)	30 (火)	31 (水)	1/1 (木)	2 (金)	3 (土)	4 (日)	5 (月)	6 (火)
燃えるごみの収集	収集日が月・木の地区			○							◎	
	収集日が火・金の地区				○							◎
直接搬入	ひたちなか・東海クリーンセンター(燃えるごみ)	★		●	★						★	●
	村清掃センター(燃えないごみ・粗大ごみ・資源物・剪定枝葉)	●		●	●						●	●

○…年末最後の収集日 ◎…年始最初の収集日 ●…搬入可能日 ★…事前予約が必要な搬入可能日

【問い合わせ】清掃センター(☎282-7289)

ふるさと歴史訪 ー自然を探してー

3種のエビを1分で確認

私は照沼小学校で行っている水生生物学習会に出向いています。新川に近い学校のため、児童は川の生き物について大変興味を持っており、学習会の日には子どもたちにとって一大イベントになっています。徒歩で移動して新川に入水し、網の使い方を教えてスタートすると、わずか1分で3種のエビが採取されます。

まず、汽水の河川や湖沼に見られる大型で褐色の「テナガエビ(テナガエビ科)」に驚きます。体長は約10センチメートルで、大きくになると手の長さが体長の2倍くらいになります。「川エビ」と呼ばれ、霞ヶ浦などではつくだ煮や揚げ物として商用化されています。水質や水温の変化に強く、県内河川の河口域で普通に見られることから、この時点で、新川は海の満潮時に太平洋から潮が上がりつつあることを説明します。

次に、体長約5センチメートルで体が透明な「スジエビ(テナガエビ科)」が採れます。国内に生息する淡水性エビとしては最も分布が広く、北海道から沖縄まで生息します。体に7条の黒褐色の筋があるのが名前の由来です。夜間に水生昆虫や小魚、貝類などさまざまな小動物を捕食します。まれに汽水域にも生息す



【テナガエビ】

ることもあり、照沼小学校下の新川は優れた水環境にあることも説明します。

やや上流で網を入れると体長約1センチメートルの個体「ヌマエビ(ヌマエビ科)」が採取されます。ヌマエビは本州の近畿地方から東北地方までに分布する日本固有種で、一回り小型のヌカエビと分布が重複していますが、一般的にヌマエビ類と称されます。淡水域の水草の間に生息する雑食性で、水草や川底の色に変化できる擬態という性質があり、さまざまな色の個体が見られるバラエティー豊かなエビでもあります。

網の使い方を習得した子どもたちは、その後、ニホンウナギやミナミメダカなど15種類ほどの魚、トンボのヤゴなどの水生昆虫も採取します。特に魚の観察は児童も先生も次の授業の時間を忘れてにぎわってしまいます。最後に、数分間で3種のエビが確認できる水辺は大変珍しい環境にあることや、それには豊かな田園地帯が残されていること、適切な水量と水質が維持されていることなど、生き物が育つために必要な環境を村民が総ぐるみで守っていることを伝えて、授業を終えます。

茨城県環境アドバイザー

川島 省二

